

500人以上の熱気で埋まる――新勤評反対12・19全国集会 大阪から、全国から新勤評制度と橋下教育改革批判の声

12月19日の『これでええんか橋下『教育改革』(あかんやろ!)新勤評を許さない全国集会』には中之島中央公会堂を埋める500人以上の教職員、市民が参加し、集会は大成功した。集会は映画「はながゆく」集会バージョンの上映を前置きに、続いて趙博さん、ハルマゲンさんの歌と演奏で始まった。集会は大阪、各地の声と力を結集し、新勤評の廃止のために闘おうと確認した。



内容豊かなパネルディスカッション

第1部はパネルディスカッションで、さまざまな立場の方が教員評価の問題点を明らかにした。それぞれのパネラーが非常に印象に残った重要な指摘をした。

【一橋大学の中田康彦さん】教員評価は1年という短期に形ある成果を求める。従って積み重ねを必要とする活動や、形ある成果にならない活動をシステムの中から閉め出してしまう。また評価される活動が特定のパターン化することによって教員の活動から多様性が失われ、目の前の多様な子どもにも合わせることができなくなる。

【弁護士の冠木克彦さん】教育はその子どもの独自のニーズに従って、発達段階に応じて、ふさわしい方法で行わなければならない。現在の教員評価システムは、〇〇大学に何人合格したなどと子どもをだしに使って成果を競わせ教育を歪めている、このような学校教育目標を作るのは校長であり行政が教職員を直接支配する為の道具になっている。しかも現場の校長たちが「もう止めてくれ」と声を上げているのに止めないのは制度が教育のためのものではないからだ。

【元東京都立三鷹高校校長の土肥信雄さん】評価をするには同じ空間で長時間一緒に仕事をしていることが必要だがほとんどの校長は校長室から出ないから評価できない。教員評価は生徒がするのではなく校長がするから、教員は生徒ではなく校長しか見なくなり、生徒は置き去りにされる。日頃の活動を見ていないから職員会議などでの校長への態度で評価することになり思想統制することになる。自分自身の例では再任用拒否のために意図的・政治的にオールCの評価を都教委が付



けた。

【支援学校教員奥野泰孝さん】個人の評価システムはチームプレーとネットワークで動く教員の評価としてはおかしい。校長が学校教育目標を決める。「障害の改善・克服を目指し、心身ともに健康な身体を育成する」といった誤った目標掲げる支援学校校長も出てくる。教員がそれに従えば子どもをしんどい目にあわせる。人格の形成という教育の目標からはずれる。このシステムを作った人は、「権力と金で人は動く」と思っている。

【府立高校卒業生の松村紘子さん】卒業式の前の学年集会で、「君が代」について校長先生に質問した。校長先生が答えなかったので、担任の先生が答えるように言ってくれた。後日、それが理由で先生が「C」評価になったことを知った。その理由は「校長の名誉を傷つけたから」。すごくショックで、質問をしない方が良かったのではないかと申し訳ない気持ちで一杯になりました。生徒・保護者に支持される先生が「C」になる。これはすごく疑問です。

【保護者の立場から松尾孝子さん】中1と高1の子供の保護者です。教育とは何かが混乱している。親も教員も何でも他人と比較するのは当たり前となっている。テストのたびに自分がどこか確かめさせる、テストの目標を立てさせ達成できないとクラブでも罰を与える等。橋下知事が「教育に競争が必要」と言うとき、大人がすでにそれに取込まれている。子どもが正直に気持ちを言えない、人と人の信頼関係が持てなくなるのが恐ろしい。

各地から次々にアピール

休憩を挟んで、初めに新勤評制度と闘っている宮城、山形、千葉、東京、神奈川、愛知、三重、兵庫、広島、福岡、大分など各地からの連帯のアピールが行われた。

さらに、すでに新勤評制度や不当な評価をされたことと裁判等で闘っている人たちがステージに上がった。初めに東京で業績評価裁判で勝訴を勝ち取った大嶽昇一さん、続いて大阪の不提出訴訟事務局の宗宮恵司さんが裁判の現状について報告。さらに大阪で不当評価撤回で人事委員会提訴をした宇都宮喜康さんがアピール。

つづいて、分限処分撤回訴訟を闘っているジョニー H (正田哲也) さん、訴訟団原告のTさん再任用採用拒否撤回闘争、東京の日の丸・君が代強制予防訴訟団(永井栄俊さん)、東京・被処分者の会(近藤徹さん)、門真3中処分撤回裁判(川口精吾さん)がつぎつぎと登壇し、教育委員会による不当な処分、攻撃との闘いの報告と連帯のアピールをした。



最後に橋下教育改革反対や、さまざまな諸運動との関わりから、「共に学び、共に生きる教育」日本一の大阪に！ネットワーク(鈴木留美子さん)、教育市民署名実行委員会(松田幹雄さん)、朝鮮高級学校卒業生、「在特会」の攻撃に抗して闘っている徳島県教組(小原伸二さん)、偽装請負告発者を不当解雇と闘う吉岡力さんが登壇しアピールした。

集会は最後にアピールを採択し、市内のデモに出発した。

